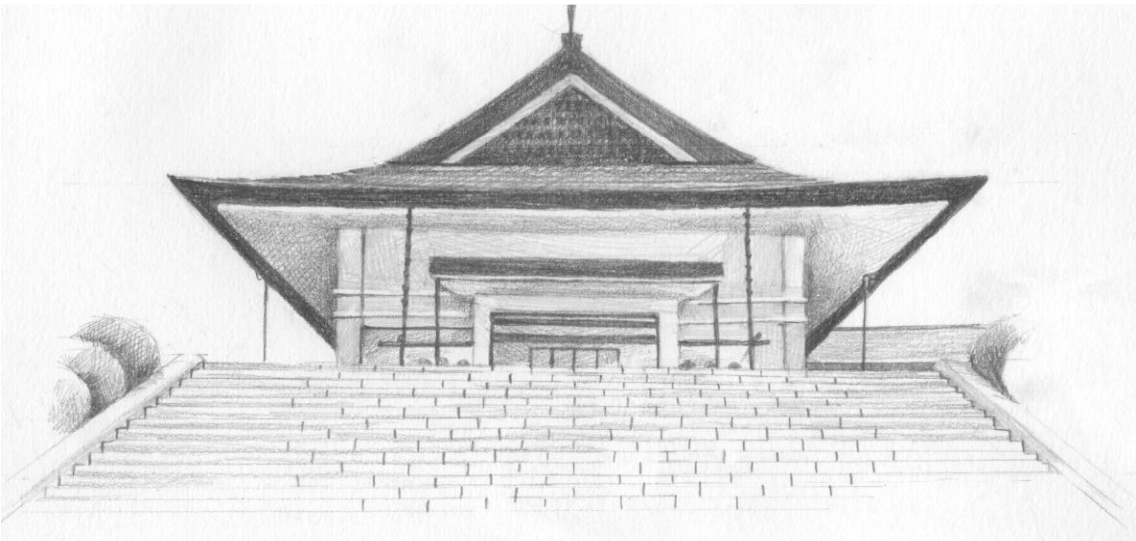
かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314



現笠岡大教会神殿正面石段下から見上げる

一年間を通しておぢばを賑やかにしよう

1．毎月一千人のおぢばがえり

1．五十万軒にをいがけとおさづけの取次

立教169年
3月号

表紙のことば

墓地の事で書いておきたい事があった。笠岡の小丸にあった石碑を移したのだが、その中に「上原なを、うの、利助、せい」の名を刻んだ合名の石碑がある。ここには佐吉の深い思いが感じられる。畳表商・備佐は将に佐吉の信心から生まれたものであり、この道に寄せて頂く飛躍台となった。石碑はその飛躍台の有様を偲ぶよすがである。

初代の面影を偲ぶ、あちこちの憶い出の場所を上原元子さんの絵で廻り歩いて、一年が経った。最後の絵をどこにしようかと思いながら、やはり今の笠岡大教会の正面、神殿がいいのではと考えた。私は神殿のこのアングルが好きである。世界救けに向かって、鳳が両翼を拡げて、今将に風の中に飛び立とうとするイメージを感じる。

初代・上原さとは昭和十七年(1942年)九月十日、九十二歳で出直した。教会設立が明治二十四年(1891年)だから、約五十年間、笠岡の名称の大教会への歩みを共にしてくれたという事になる。その間、笠岡は支教会、分教会、中教会を経て大教会と成人の道を歩んだ。会長は初代、二代、三代を数えた。大教会陞級が昭和十五年(1940年)なので、初代は四十九年で、存命で大教会のご守護を戴いた事になる。

さて出直し後の事を大教会史、大教会史年表で様子を振り返ってみよう。

昭和17年9月10日　笠岡大教会初代会長・上原さと出直し。

9月11日　笠岡大教会初代会長、密葬。

9月12日午前7時　火葬場で骨揚。この日より毎日霊前奉仕。

9月14日　笠岡大教会初代会長五日祭執行。

9月18日　笠岡大教会三代会長夫妻、台湾より帰会。

9月19日　笠岡大教会初代会長十日祭執行。

9月28日　本部員山本利正先生齋主で笠岡大教会初代会長、本葬。

9月29日　笠岡大教会初代会長二十日祭執行。

10月9日　笠岡大教会初代会長三十日祭執行。

10月19日　笠岡大教会初代会長四十日祭執行。

10月22日　笠岡大教会初代会長五十日祭執行。大教会祖霊殿に合祀祭執行

12月28日　笠岡大教会初代会長百日祭執行。

昭和18年10月22日　本部員山本利正先生齋主のもと、笠岡大教会初代会長一年祭執行。

如何に三代会長をはじめ当時の先生方が、初代を慕い、初代の出直しを哀しんだかが、実感できる。この頃、三代会長は台湾伝道庁長として台湾に常駐していた。教規の改正で庁長は夫妻で現地に常駐する事になっていた。昭和十七年の三代会長の動向は、四月中旬台湾から帰会五月二十二日、笠岡町の戦没者慰霊祭に臨席、五月三十日、神戸から台湾に出発、八月七日から九月六日にかけて、廈門へ出張視察となっている。当時は船での往復であったので、しかも台湾航路は既に、常に米国の潜水艦の監視下にあった為、なかなか思うように往復できなかった。だから三代会長夫妻が十八日に帰笠できたのは、ご守護の賜である。

九月十一日の三代会長の大教会宛の電報を最後に載せる。

9月11日台北局午後1時43分　笠岡局午後7時35分

キユウチヨウミジヨウチウミナサマノゴハイリヨシンシヤス」一八ヒコクベツシキノテハイ」ソレマデニカエルミコミ」ホカリンキノシヨチタノム」ウエハラ

初代会長というより祖母の出直しに、遠く台湾の地にあって、思うように動けぬもどかしさ、万感胸に迫っての電報であったと思われる。

終

（史料部長　上原繁道）

学生層育成者講習会
夢とロマンをもって
西浦忠一先生

笠岡学生担当委員会(吉岡誠一郎委員長)では、去る二月二十一日、大教会月次祭に引き続き、本部学生担当委員会副委員長・西浦忠一先生をお迎えして、学生層育成者講習会を開催しました。

●種まき

私は、現在、副委員長のお役をいただいておりますが、学生担当委員になって四年になります。その前は、愛知で単独布教をしておりました。

そこでのいろいろな体験を交えて、学生層育成の大切さについてお話をさせていただきます。

おぢばで生まれ育った私は、立教百五十年の年、願い出て布教に出ましたが、戸別訪問をしているうちに、だんだんと話しをしてくださる方ができました。

それは、身上や事情で苦しんでいるというドロドロとしたお話がほとんどでしたが、私は、そういう話しを聞くたびに、両親が信仰をしていてくれてよかったと思いました。

自分がお道の信仰を伝えてもらっていなかったらどうなっていただろうと、おぢばで生まれ育ちながら、布教に出て始めて、信仰の喜びを感じることができました。明治七年に入信した初代から私で五代目ですが、その間、いろいろな節の中、私の代まで信仰を繋いでくれたお陰だなあと、しみじみと感じることができました。

私は、よく若い人達にも申すのですが、代を重ねている者は、先ず、信仰の元一日をしっかりと知ることが大切です。何の為の御恩報じかを知らなくてはなりませんし、元一日なくて、今の自分はあり得ませんので、元を知ることはとても大切なことです、また、元気が出ることです。元というのは、ゼロからの出発です。それを思えば、どんなことでも喜べます。

初代は、不思議な奇跡についてきたのではなく、お道の素晴らしさ・教祖の教えを信じ、これしかないと思ってついてきたのですから、その喜びを、周りの人達に伝えなければと思いました。

布教に出てからしばらくして、こどもおぢばがえりの季節になりました。前真柱様から「仕切ってつとめよ」と仰せいただいておりましたので、何とか一人でも子供をおぢばに連れて帰ろうと心を定めて布教に廻りました。

何百軒廻っても、誰も相手にしてくれず途方にくれておりますと、林さんという方から、一本の電話がかかってきました。

私は、リトマガやおぢば案内の写真集を携えて説明に伺いました。すると、一泊二日くらいなら、子供にもよい経験になるということで、参加してくださることになりました。

そうなると、街というのは不思議なもので、「林さんが参加するなら」と、結局八人でこどもおぢばがえりに参加することになりました。

その後、こどもおぢばがえりに参加した子どもたちが、布教先の家に足繁く来るようになりました。最初は六人から、だんだんと増えてきましたので、月に二回くらい、子供会をすることになりました。

そうしていると、二十人くらいが子供会に来るようになり、翌年のこどもおぢばがえりには、二十二人の子どもが帰ってくれました。

そのおぢばがえりの後、今度は、勉強をみてくれないかという声が出て、三人兄弟の男の子の勉強を見るようになりました。そうすると、街の噂(子どもたちの間のネットワーク)というのは面白いもので、「あそこが面白いらしい」となると友達を誘ってくるのです。

そうして、最初、三人だったのが、多いときには十七人も来るようになりました。

あるとき、塾をしていると聞いて、ご婦人が訪ねてこられたので、「勉強ならよそへ行かせた方がよろしい。私は、心の豊かな子どもになっても

らいたいので躾をしますし、天理教布教師ですので、天理教の教えを遠慮なく話します。」と申しましたが、子どもは、友達の行くところに行きたいので、親の意見をよそにだんだんと来るようになりました。

こちらも一生懸命しておりますと、親御さんたちの間にもだんだんと信用ができて、当時の子どもたちが、現在では、大学生・社会人になって、おぢばがえりのスタッフをつとめてくれるようになりました。

昨年も、西浦隊で二泊三日のこどもおぢばがえりに六十名ぐらいで団参しましたが、そのスタッフたちは、皆、その子供会で育った子たちでした。多いときには、九十二人で団参を組んだこともありますが、東京や長野・四国からわざわざおぢばがえりに帰ってくれるのです。

●節から芽が出る

子どもは来るのですが……大人はやはり、なかなか相手にしてくれません。布教に出て、始めてよふぼくを御守護いただいたのは四年目でした。

その間、何度も挫折しそうになりましたが、子どもたちのお陰で、何とか心を倒さずに続けることができました。

だんだんと大人の人も来てくださるようになり、賑やかになってくると、自分でそういうことをしているように勘違いしてしまうのです。

大きな御守護をお見せいただきながら、神様の御守護を見失って、我流の信仰に陥り、そうしたときに、大きな節をお見せいただきました。

立教百六十年の年には、八十名のこどもおぢばがえりを心定めしました。当時の実績としては大風呂敷を拡げた訳ですが、子どものネットワーク、親御さんのネットワークで、六月ぐらいに五・六十人の予約がとれて、「まぁ、こんなものかな」という気になりました。

そんなとき、予定日の二週間前の七月十九日、家内が重症の網膜剥離になり、失明をほのめかされました。

一軒から始まったおぢばがえりだったのに、歳月を重ねる内に、初心を忘れ、少しばかりの形にあぐらをかいて安穏としていた自分自身を、本当に反省させられました。

直ぐに親に電話をしますと、「それは、をやの思いに添い切ってないんや。前真柱様のお許しを戴いて布教に出てるのに、どれだけ、その思いにお応えしているんや。先ず、その心を作らなあかん。」と言われました。

このことは、布教に出ている私たち二人の本当の心の置きどころを悟らせていただく大きな節でした。

翌日、憩いの家に入院し、手術が七月三十日に決まりました。

この時点で、おぢばがえりの方は、七十名ぐらいできていましたが、八十名の心定めには十人足りません。神様に申し訳ないと思い、残された二・三日、とにかく、家々を廻りました。

そういうときというのは不思議なもので、仕切り根性というのでしょうか、二泊三日を一泊二日でも日帰りでもよいからと、事情を話して勧誘しましたら、皆さんのお心寄せもいただいて、当日、ちょうど八十人の御守護をいただきました。

ところが、一つ困ったことがありました。家内が入院しておりますので、女の子の面倒を看ることができないのです。

そうしたときに、子供会で育って高校生になっていた一番上の女の子たちが五人いましたので、事情を説明して、家内の代わりをしてもらいました。そして、二泊三日、本当に一生懸命、女の子たちの面倒を看てくれました。

私たちが布教に出て八回目のおぢばがえりでしたが、終わってから「今までの中で一番楽しいおぢばがえりだった」とその高校生達が言いました。

なぜでしょう？ 今までの与えられる喜びから、与える喜びを感じてくれたのだと思います。本当にありがたいおぢばがえりになりました。

節のお陰で、私たち夫婦は、布教師の心という

ものを作らせていただきました。

お道を通る者にとって節は付きものです。心を定めたら、何とかそれを成し遂げさせたい、喜びを味わわせたいと、神様がお与えくださる節です。どんな節をいただいても、子どもの成人を願う親神様の深い親心が込められているのですから、節をお見せいただいたときには、自分自身の心が、本当にをやの思いに添い切れているのか、教祖のひながたを見つめ切れているのかを反省し、心を入れ替え、そこに込められた親心を悟らせていただいて、心を定め、実行することが何よりも大切だと、この節を通して痛感いたしました。

●学生担当委員会の諸活動

当時、高校生・大学生になった子どもたちを育てる術といえば、こどもおぢばがえりとお節会ひのきしんしか知らなかったのですが、年に二回だけの出会いでは、信仰を植え付け、よふぼくへとお導きするには心許ない、どうしたらよいかと悩んでいたとき、四年前に、学生担当委員の御命をいただきました。

それまで、少年会は、歴史も組織も活動も認識も充実しておりましたが、恥ずかしながら、学生担当委員会の行事については無知でした。委員になって初めて、諸活動を知りました。

夏休みの学生生徒修養会高校の部、三月には大学の部があります。三月二十八日には学生おぢばがえり、地方 教区では「まなびば」というのがあります。おせち学生ひのきしん隊という行事もあります。

そして、その行事に携わるようになって、スタッフ達の一生懸命な姿に感動しました。

今、お道は、修養科生が少ないとか別席者が増えないとか、何かと右肩下がりの状況の中で、何とか右肩が少しでも上がって伸びているのは、例えば、学生生徒修養会大学の部であり、春の学生おぢばがえりであり、少年会活動では鼓笛隊であり、そういう若い人たちを育てるものが右肩が上がっているのです。

それは、友から友への口コミ効果であり、また、それを支えるスタッフの並々ならぬ努力の成果だと痛感しました。

ここにいらっしゃる皆さんを含め、育成に携わる者は、そういう若い人のエネルギーをどこにもっていくかということを、考えることが大きな御用だと思います。

実際、昨年の春の学生おぢばがえりには五千人余の学生が帰ってきましたが、その十五%(七百八十人)の学生の親が未信者でした。つまり、それだけのにをいがけを学生がしたということです。

この学生たちの力がだんだんと増してくれば、将来、お道はどんな姿になるのだろうかと、希望が湧いてきます。

学生生徒修養会高校の部には、千七百人ぐらい帰ってきます。来るなり帰りたいと言い出す子もいますが、スタッフたちが、一週間、本当によく面倒を看ておりますので、退寮式の頃には、互いに抱き合ったりして、ボロボロと感動の涙を流しているのです。凄い光景です。

「学修マジック」と呼ばれているそうですが、「もう帰る」と言っていた子が、一週間で変わるのです。

なぜ、変わるのか？ それは、スタッフの本当に一生懸命な姿であり、真柱様のお掛けくださる大きな親心のお陰なのです。

十七歳になっても、なかなか別席を運んでくれるものではありませんが、学修に参加すると、その一週間で、よふぼくになりたい、おさづけを取り次ぎたいという気持ちになるのです。

私が申したいのは、そういう学修に学生を参加させないのは損だということです。

家や教会で学生の丹精をするのはなかなかですが、学修に参加させればそういう子どもに育ってくれるというのが現実なのです。

若い人たちというのは、これからのお道を担っていく大切な人材です。末代の道ということを考えると、その若い後継者の育成というのは、何を

措いても取りかからなければならない大切なことだと思います。

では、どうすればよいのか？ 若い人たちというのは、本当に厄介ですが、自ら信仰を見出す大切な時期でもあります。

お道では、十五歳までは親の掛かり、それからは自らの責任と申します。お守り下附願もそうです。また、別席も修養科も十七歳からです。こかん様が浪速布教に出られたのも十七歳です。

それは、この年代になれば、神様のお話を理解できるということです。親神様・教祖の道具衆としての御用をつとめることのできる年代だということです。

しかし、この時期の子どもたちとどのように接すればよいのか？ 若い人たちを変えようといっても無理な話で、自ら変わることのできる環境を提供してやることが大切ですが、それが学生担当委員会の行事だということです。

●胸から胸へ

前真柱様は、「次代を担う若い人を育てるということは、これは、にをいがけ・おたすけなんだ」と仰いました。

いくら素晴らしい教えでも、人との出会いがなければ始まりません――胸から胸へと伝える教えであります。

元なるをやの思いをにをいがけることは、よふぼくに委ねられた使命でありますが、そのためには、何よりも動くことが大切です。動かなければ何も起こりません。

千軒に一軒、万軒に一軒、私たちがドアを開けるのを待っている人がいるのです。戸別訪問に無駄はありません。たとえ伝わらなくとも、伏込の種まきとなり、理は必ず残ります。

一人でも多くの方に、若い人に、この素晴らしい教えを伝えさせていただくこと、これが一番、肝心なことです。それがどう伸び拡がるか分かりません。大きな楽しみ――夢があります。道の布教師・よふぼくのロマンがあります。

そういう地道なおたすけ活動が、この世界を陽気ぐらしへと進めていく礎になってくると思います。

大人はなかなか変わりませんが、若い人は変わってくれます。こちらが、一生懸命話せば、意気に感じてくれ、実行してくれますから、学生層の育成というのは、実に遣り甲斐のあることです。

”神は心に乗りて働く“とお聞かせいただきます。学生層の育成は、勇み心をもってつとめることが大切です。

では、実際に何をどうしたらよいのか？ 学生担当委員会では、様々な行事を企画・開催しています。そういう行事に、近くにいる学生の背中を叩いて押していただきたい、声を掛けていただきたいのです。

学生層の育成といっても、我が教会に若い子はいないと思われるでしょう。教会にいなくても、隣近所に親戚に、必ずいるはずです。そういう人に、声をかけていただきたいのです。

繰り返しますが、そういう行事に参加させないと損です。参加させると変わるのです。おぢばの理を戴いて変わってくれるのです。

真柱様は、「若い人を育てようと思ったら、自ら育つ努力をしないといけない」と仰います。

今期学生担当委員会は「お道の素晴らしさ、教祖の御心、たすけ心を学生へ」という方針を立てています。

様々な育成行事を通して、お道の素晴らしさ、その本質を学生さんたちに知っていただく、そして、教祖の御心、最後には、人様にたすかってもらいたいというたすけ心をもって実践できる若者を丹精させていただきたいと思っております。

今年は、教祖百二十年祭の年、おぢばを賑やかにという真柱様の思いに添わせていただき、三月二十八日の学生おぢばがえり大会には、一万人の心定めを達成すべく”全名称からの参加を“呼び掛けております。

どうぞ、十年先、二十年先を見据えての、皆様方のお力添えをお願いいたします。

婦人会 委員・直轄委員部長 研修会

種まきの旬

海松ヶ岡委員部長　森本　冨美子

一月二十日、大教会の年頭会議で、大教会長様は「教祖の年祭の年として今年一年をおぢばを賑やかにさせて頂き、教祖にお喜び頂きましょう。」と仰せ下さいました。

年頭に真柱様からは、「三年千日の年祭活動の成果を、持場立場に応じて、表わさせて頂きましょう。」と大きな親心をおかけ頂いてのことし立教百六十九年。もう次なる百三十年祭へ向っております。

私の主人は、三年前に教会長を長男にゆずりました。つとめの足りない私は、今も「委員部長」を続けるようにと、親神様から、次へのバトンタッチを許されぬまま引き続き心振るいたたせて歩んでおります。「おや」に御満足頂くまで、つとめきらせて頂くことが、今の私の勤めであると思っております。

私の主人から「アホかぁ？」と言われる程、単純に何でも喜び、笑いの絶えない毎日を過していますが、それもその筈、心臓病で弱かった娘時代の私が、何とか結婚出来て四十年。現在では、こんなに元気一杯にならせて頂いてもう有難くてうれしくて、何もかも結構にならせて頂いて、喜ばずには居られない御守護の中にあるからです。

海松ヶ岡の老会長様(姑)又、前会長様(主人)に喜んで頂くことだけを念じて、明るく通らせて頂いて参りました。そのおかげでしょうか？　そして八人の子供は一人も欠けることなく健康で、六人の息子の嫁達は、とても仲が良く、又、素晴らしく、届かない私に優しくて、素直で、何一つ心わずらわさない娘の様な子ばかり。毎日孫とともに教会に集まってくれる姿を拝んでいますが、同時に、日頃の自分の心の通り方が大切だなと、しみじみ感じているこの頃です。

去る二月二十二日、委員部長の研修会を受けさせて頂き、私は「大きなご守護、ご高恩にお礼のつとめをするのは今！」と感じました。ことしは「月々十人のりのハイエースで必ずおぢばへ帰らせて頂くこと」を、私と、私の委員部の心定めとしておりましたが、二月十九日第一回目の日帰り帰参が実現しました。そして二十二日の「研修会」をうけて、この心定めの完遂こそが目標だと確信しました。昨日、三月十三日。十人で第二回目の日帰りおぢばがえりが出来ました。本当にありがとうございます。今が百三十年祭の御守護を頂く為の種まきの旬なのだと思います。ますます楽しく、嬉しく、おぢばがえりのおさそいに励みたいと思います。

次の塚へ向かって勇みに勇んで、播(ま)くべき旬の種、親が教えて下さった「おぢばがえりという種」を、今、まかずにおられないという心で、歩ませて頂きますので、笠岡支部の、会員の皆様、私を引張って下さり、押して下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

一年前を振り返り

吸江委員部長　西村　由理子

一年前の委員部長研修会の日、私は、一月三日に突然出直した父を想い、練り合いの席で涙してしまったことを思い出しました。

ひどい糖尿病を患いたびたび失禁する父にいたわりの言葉も掛けず、情けない思いで責めてしま

ったのが、父の元気な姿を見た最後でした。父の告別式が済んで間なしに、義母が身上で入院するというふしが続きました。

ちょうどそんな時研修会があり、支部長様をはじめ委員部長の方々の励ましにとても勇気づけられ、私は長年勤めた会社を辞め、疎かにしていた婦人会活動に力を入れさせて頂く心定めをしました。一月末に退職し、さっそく二月から毎月十五日に例会をもたせて頂くようになり、最初の頃四、五人だった参加者が段々と増え今では十人、十一人と参加して下さり、皆で喜んで楽しくつとめさせて頂いております。

このたびの研修会で支部長様より、「理になるつとめ方をさせて頂くように」とのお言葉を頂きました。それは、神一条が優先される、理の重い順につとめるという姿勢です。

練り合いの時、そのお言葉を受け委員部長の大先輩が「ふしを乗り越えるとうつわが大きくなるんよ」というお話をされました。どんな事情もさておき神様の御用第一に通られた、その実のあるお話にとても感動しました。

午後からの大教会長様のお話にも「親神様のお働きは何も変わっていない。自らうつわを傾けて御守護をこぼしている。」と、うつわについてのお言葉がありました。

今年から娘が女子青年の委員をさせて頂くようになり、次男が学修大学の部に参加させて頂きました。私も子供達に負けないよう、親の声を素直に受けさせて頂き、ご守護をこぼす事のないよう通らせて頂きたいと思います。

私にとってこの研修会は、その年一年をどのようにつとめさせて頂くかという指針となる大切な日となりました。また来年のこの日、自分は一年間、御守護が形になって現れてくるような、「理になるつとめ方」をさせて頂いたか振り返るという貴重な一日となるでしょう。

心の成人、委員部長としての立場

出雲委員部長　高島房子

成人不足の者が人に読んで頂けるような原稿は上手に書けないのですが、今の姿、今の自分自身の思いのままを書きたいと思います。

私は、教会で生まれ、教会で育ちました。その中、私が六才の時、父の出直し、そして、母は、上級と信者さん回りとほとんど家に居ない毎日でした。子供五人だけが家に残ると言う事は、母として気がかりだった事でしょう。子供心に母の姿が今でも目に焼きついて離れないのです。〝たんのう〟して通ってくれたからこそ今の幸せがあり、喜びがあるのだと心からそう思えるようになり、高校の時、誰もいない家に帰り、一人で寝て、学校へ行ってました。その事によって一人で絶える事が身についたのだと思います。人は皆、生き方も育ち方もちがいますが、それを喜びに変える事が出来たら心の成人が出来ます。前書きが長かったですけど、私は、結婚して十八年に成ります。子供もずいぶん大きくなりました。子育ての中、右も左もわからないまま委員部長としての立場を頂き、十五年に成ります。今思えば早いものです。

委員部長として母親として婦人会の上に立つと言う事は肩にどんと荷物でも乗ったような毎日でした。そして、毎月の例会をさせて頂き、十年になります。婦人会活動の上にも、どのように進めていったら一番良いのか、いろいろなお話しもでます。心に痛む話しもあります。反省する毎日です。過去をふり返るより前向きにとり組む事が私のつとめだと思います。

おふでさきに

やまさかやいばらぐろふもがけみちも
つるぎのなかもとふりぬけたら　一号 47

まだみへるひのなかもありふちなかも
それをこしたらほそいみちあり　一号 48

ほそみちをだん〳〵こせばをふみちや
これがたしかなほんみちである　一号 49

先の事は見えませんが、心通りに動いていれば神様は働いて下さる。「こんな事言ってもらって結構」「あんな事教えてもらってよかった」と思えるようになったら道は明るくなるでしょう。教祖の話しの中に「ぶどう」の話しがあります。〝皆、丸い心で〟教祖は、この世の中は、みんなぶどうのように素直で優しく温かい丸い心で助け合って暮らしていくようにと教えて下さいました。これが逆になれば角のある心というのは素直ではなく人をいじめたり、言葉で傷つけたり、人の心を痛める心を言います。女は台と聞かせて頂いています。台がしっかりと地についていなかったら柱もぐらつきます。教会の中が明るくなるのも女の役目〝陽気ぐらし〟なんです。笑っていればストレス発散にもなります。年老いた信者さんが「教会へ参るが楽しみ」と言って下さいました。励まされました。この年祭の年、精一杯の勤め方を神様に見て頂き、〝ぶどうのように丸い心〟で通らせて頂きたいと思います。

「犯罪の陰に女あり」

芳井委員部長　佐藤和代

今回の研修会での支部長様のお話の中にも、いつだったか真柱さまが引用されたこの言葉を聞かせて頂きました。ずっと耳から離れないこの言葉について、考えてみたいと思います。

以前より一家の心は、旦那様。実際子育てから、お財布の紐を握るのは奥様でありました。もちろん、しつけをするのが母親というだけで家の取り仕切りは、父親でありました。そして犯罪という悪いことの裏には意外にも、か弱い女性がいた。という以前の表現は、女性主犯の犯罪も珍しくない現在では、強くたくましく経済力もある女性が多く繁殖していく社会の中で本来の女性の徳分や母親の徳分は、よほど自分から強く求めない限り、難しくなってきているように思います。

社会の中にも家庭の中にも男女平等である！という言葉を頻繁に耳にするように、女性と男性のあり方について平等が叫ばれています。でも、実際は都合の良い場面にだけ利用されている様な気がして本来の意味での平等とズレがあるのでは？と思えてしまいます。

〜っと、ここまでは良いのですが、我が家はといいますとやさしく理解ある旦那様が、男性の中にもある母性を最大限に発揮してくれているのが現状で申し訳ないばかりです。女性として、母親として、妻として、委員部長としてもっともっと自覚していかなければ、と思わせていただきました。ありがとうございました。

女子青年移動例会

婦人会笠岡支部女子青年では「おぢばを賑やかに」との思いに添わせて頂けるようにと一月より、委員長上原元子さんを芯に年間計画を立て、去る二月二十五、二十六日(一泊二日)おぢばで移動例会を開催させて頂きました。おぢばでの参加者を含め、女子青年二十名の参加となりました。

一日目、朝七時半、大教会出発、途中休憩を入れながら香芝インターで昼食をとり、十二時二十分、本部到着。支部長様と、委員長の元子さんが待っていて下さいました。

その後、別席組と分かれ、本部参拝、廻廊ふき、つとめ場所の見学、次に南右二棟に移動し、いろいろと見学させて頂きました。買い物をして、詰所で夕食を頂いた後、お部屋の方で親睦会を兼ね、支部長様を交えての例会となりました。自己紹介の後、牛乳パックを使って、お箸入れを作りました。

それぞれ好きな布を選んで牛乳パックに貼るという単純な作業なのですが、思っていたより難しく、あっという間に時間が過ぎ、終始、和やかな雰囲気で楽しくお箸入れを作る事が出来ました。

途中、支部長様よりケーキのおやつを頂いたり、委員がこの日の為に作って持って来てくれた「たいやき」を食べたり、お腹いっぱい、笑顔いっぱいの例会となりました。

二日目は、八時に詰所を出発し、東礼拝場で月次祭参拝、その後、昼食をすませ、女子青年のお話会に参加させて頂き、三時頃、天理を出発し、無事、大教会に帰らせて頂きました。少々、ハードスケジュールではありましたが、おぢばに帰らせて頂き、例会も、支部長様の親心を頂き賑やかにつとめさせて頂くことが出来ました。委員長を芯に、委員もみんなに喜んでもらおうと頑張ってくれました。今年一年、おぢばを賑やかにできるよう女子青年活動にも御協力頂けますよう、よろしくお願い致します。

(婦人会 女子青年部　担当者　田　中　つかさ)

物を大切にすること

福満分教会　水　野　静　香

私は、小学生の時に何度かおぢばがえりに参加させて頂きましたが、その時は友達にさそわれ天理教というものをほとんど知らず、ただ楽しい旅行感覚で行ってました。今年は天理教百二十年祭の年ですが私はそれすらよく知らず参加させて頂きました。天理教については本当に初心者な私ですが感想を書かせて頂きます。

私が、印象に残っているのは、牛乳パックで箸入れを作ったことです。自分の箸を持ち歩くと割り箸を使わなくてすみます。割り箸はリサイクルされないので、木を伐採した土地は土砂崩れが起こります。自分のことばかり考えて他人のことを考えないからこういうことが起こるのだと思います。私一人の行動では変わらないかもしれませんが、人に伝えることによってかわってくれればいいなあと思います。箸入れを作ることによって、ものを大切にすることを考えれてよかったと思います。

係委員の人がよく気をくばってくださり、とても楽しくすごすことができました。また機会があればおぢばに帰らせて頂きたいと思います。

廿子青年として天理に帰ってみて

海松ヶ岡分教会　森本美和

私は、久しぶりに女子青年として天理に帰りました。今回の行事に参加した理由は、私の知り合いに誘われたからです。参加してみて本当に良かったと思いました。

私は、思ったより人見知りなので、このような行事は苦手だったんですが、今回は、全然以前と違って人と良く話せるようになりました。

行事内容では、夜に皆で箸入れを作りました。そこで私は、My箸運動の事を知りました。My箸運動とは、どこかへ行ってご飯を食べるときに、ほとんどの人は、割り箸を使って、使い終わると捨てるの繰り返し、その割り箸は、実際の木を切って作られているもので使って捨てたら、もうリサイクル出来ないんです。そうすると、どんどん木が切り倒され、環境破壊につながるのです。それを減らすために、My箸運動があるのです。

その話を聞いて、私はこのMy箸運動に、積極的に参加しました。そして次の日の昼食で早速その箸を使いました。

二日目に私は初めて、かぐら面を見に行きました。私は、「かぐら面って何？」っと思っていたら、一緒に女子青年に行った委員の人が説明してくれました。おかげで楽しく見れました。

私は、この行事中に別席を運びました。いつもと雰囲気が違って聞きやすかったです。

そして最後に、女子青年の集いに行きました。そこには、他の県や国から来た人達が、いっぱい居ました。私は、こんなにもたくさんの人が女子青年をしているのかと思ったらすごいと思い唖然としました。そして集いが始まると、会場がいっぺんにシーンとなり、それにもビックリしました。

始まって、ある三名の人が自分の過去を話してくれました。その中で一番印象的だったのは、美容師という仕事が好きでその人は、その美容師と言う仕事に就きました。でも、美容師は、手がすごく大事で手が荒れたりすると人の髪も洗えない、はさみも持てないぐらいになるそうです。その人は、そのような事になってしまい悩んでいたら親に修養科に行く事を進められ行ってみて修養科が終わる頃、その人の手が、かゆみもなくなり、はさみが持てるようになりました。

その話を聞いて、やっぱり神様はすごいと思いました。

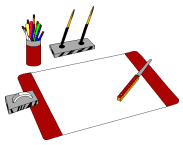
この二日間は、いろんな話を聞いてみて勉強になりました。二日間、本当に良かったです。

・原・稿・募・集・

内　容　①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事　等々

字　数　１０００字前後（８００字～１２００字）
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は１句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@kcv.ne.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

私と修養科

稲讃分教会　高橋竜二

私は正直いいますと修養科と聞くだけで耳栓をするぐらい修養科が大嫌いでした。

と言うのも私が幼少の頃私の父が修養科中に出直したというのが頭からはなれず、ずーと引きずっていたという事もあり、嫌で嫌でたまりませんでした。

それでも私の叔父が熱心な天理教信者で私が高校を中退した15歳ぐらいから何か事あるごとに「修養科に行け」とたびたび言われてきたのですが、その都度断りつづけてきたのです。

この度修養科に行く事になったのは、昨年の11月ある事から稲倉分教会にお世話になる事になったのです。

私には以前働いた時の給料が入るまでと思っていたのですが、会長様から「部内の稲讃分教会の月次祭、高橋君一緒に行ってくれんか？」と言われ断る理由もないので行ったのですが、そこで今度は「高橋君20日に初席を運びに行こう」と言われそのままおぢばへ行く事になりました。今度はその帰り三木のSAで会長奥様から「私も修養科に行くから、高橋君も一緒に行ってくれん？」と言われ、一瞬考えました。「今断ったら住む所がなくなる」と次の瞬間「行きます」と言ってしまいました。教会に帰ってから後悔しました。

周りの人に修養科の事を聞くと、みな口を揃えて良い所、楽しい所だと言います。とりあえず覚悟をきめて行く事にしました。

実際行ってみて、まず26日の月次祭、人の多さ、全員揃っての柏手、正直感動しました。

まず詰所生活ですが、平成の今の時代にテレビ新聞の禁止、これには正直まいりました。それと修練がなければ私には詰所生活はなんでもない物でした。

学校に関しては、年齢は下は17歳上は無限みたいな、北は北海道南は九州そして海外までとさまざまです。

約9割の人達が古くからの天理教関係者ばかりで、私には場違いな所に来たなーと思い大変ゆうつでした。授業の方も、まったく何を言っているのかわからずほんと嫌でした。

一ヵ月目は、いつ辞めてもいいわと思いながら通っていたのです。その間奥様は終始私の心を何とか落付かせようと真実こめてせわどりして下さいました。

12月の中ぐらいから私の体のあちこちに異状が出てきだし自分自身真剣に悩みました。

ある日担任の先生と話をする機会があって相談したところ「ここぢばは身上に悩む人が多く訪れるのですが高橋さんの場合教祖が今までの自分を見直す機会をあたえてくれているのではないですか」と聞かされ、なるほど、と考えるようになり、今までは、修養科なんかどうでもいいと思っていたのが、どうでも三ヵ月終了せんとあかんと思いはじめたとき、ふと修養科に来る前に稲倉の前奥様に「高橋君何も考えず、三ヵ月間行ってきぃ」という言葉を思いだし、悩んでもしかたないし考えずに残りつとめさせて頂こうと思うと妙に気が楽になり、それからというもの今まで喋ったことのない人達が声をかけてくれるようになり気がついた時には15人位のグループになっていました。最初のころは、つまらない世間話ばかりだったのが三ヵ月目ともなると、いつしか、お道の話とか、おてふりがどうとか天理教の話が話題の中心なるようになり自分もだんだん、ハマってきたなーと思う様になりました。

2月20日のおさづけの日、まさか自分の心がここまでもっと思っていなかったので、おさづけ拝戴が終った時はすごく感動いたしました。

なんとか修養科を終了する事ができて、今では

このせちがらい時代に、天理教の人々の心のやさしさ、思いやりに感謝しています。

まず一番は、稲倉分教会の会長様、奥様、前会長様、前奥様、信者の皆さんには、見ず知らずの私を住まわしてもらい修養科まで世話をしてもらって、今ではほんとうに感謝しております。

これから先の事は何も考えていませんが、今自分ができる事で少しでも恩返しして行きたいと考えています。

おやさま、ありがとう♡

芦品分教会　山下育代

修養科？私は他人事のように感じていました。いつかは……ぐらいの意識でした。そんな私が修養科の決断をしたのは、いつもお世話になり尊敬する人からの一言でした。ひろみ姉ちゃんありがとう！

修養科では、39度以上の熱でスタートし、40度近くで毎日生活している中、学校も始まり、髄膜炎と診断1週間学校を休みました。入院予約をしている中、「心定め」ということを教えて頂き、私は3ヶ月どんなことがあっても朝夕のおつとめ、修練を毎日つとめる。私の最初の心定めです。すると少しずつ熱が下がり、25日以上続いた熱も下がり、入院する事もなく、病院の先生もビックリ!!(驚くばかり)でした心定めの素晴らしさを身をもって実感、体験させて頂きました。そして心定めてひのきしんをするようになってからは、いろいろな身上事情に絡んだもつれた糸が解けるよう、毎日問題が解けていく体験もさせて頂きました。疑問に思った事は、誰の口からともなくお話を聞かせて頂くような毎日を送らせて頂きました。それは、いろんな道具や鍵を与えてもらい、道具の使い方が分かる、掃除の仕方が分かる。鍵がピッタリ合うような感覚でした。掃除道具があっても使い方が分からなければ使用できないし、沢山の鍵があっても、合う鍵がないと意味がないから……。毎日が発見感動であふれていました。それもこれも教祖を知るほど鮮明になっていく様子が分かりました。

修養科では教理も学び、本当の天理教を知ったのは初めてでした。教祖のひながたを、涙なしでは伝えられない。このような感激を沢山の人々につないでいきたいと思いました

私は教祖の言葉を目標とすることが多く、意味を自分なりにつかめるまで、感じ取れるまでは毎日心に強く置き生活しました。それにともなう発見!!や自分なりに理解できた事は、数えきれないほどです。私が一番お気に入りの『神にもたれる』という言葉を知って即実行。なんと楽ちんなんだ。って言うのが最初でした。日を重ねていく内に、教祖は違うんだよと、『神にもたれる』意味を考えたら、私はいろんな事に『流されている』違いに気付きました。もたれると流されるを間違えてはいけない。自分で目標を持ってもたれていれば、そこで違っていれば新たな道が見えて来るだろうし、導いて下さるんだと思いました。

修養科では、おさづけの取り次ぎをしたのも初めてでした。10年以上前に頂いたのに、一度も取り次いだ事がありませんでした。おさづけの大切さを目の当たりに感じました。教祖がご存命でお働き下さっている事が体験できました。自分の体に入り込んで下さる瞬間体が「ふわっ」と暖かく感じ、教祖を実感しました。とても表現する事は難しいのですが、暖かさを一番感じれた体験です。「人を助けて我身助かる」意味もやっと分かった気がします。自分より周りの人々の幸せを心定めて祈り、いつも心にもってからは、また違った人生を感じる事ができ、自分のとがっていた心を反省する事もできました。こんなに多く助かってほしい人間が周りにいる事に気付き、少しあせりましたが、まず自分の出来る事から、心はいつも教祖と一緒にという気持ちで、勇んで動けるようになりました。ありがとうございます。

談話室

ガンバ!!

甲井分教会　山田睦浩

先日「かさおか」編集掛のO先生より原稿依頼があり、しかも談話室に掲載するとの事、同封の別紙に、心に思い浮かぶままに書いた感想文でもよいとあったので、私自身、特に最近思うところを書きたいと思います。

昨年は、特に幼い子供が犠牲になった凶悪な事件が相ついでおこり、私も三人の子供の父親として、このような事件に巻きこまれた子供の御両親の心中を思うと、とても人事ではない様に思うのであります。朝、元気で家を出ていって、登校中、あるいは下校中に、何ら罪も、落度もない子供が命をうばわれる。

毎日々々、日本中のどこかで、事件・事故、特に殺人事件が繰り返される。

今までは、この様な事は、対岸の火事というか、よその国の出来事の様に思っていたけれども、すぐ間近にせまってきている様に思わざるをえないのであります。

御神言の中に、

月日にわにんけんはじめかけたのわ
よふきゆさんがみたいゆへから

とあります。

今では、よほど、かけはなれた方向に世界が進んでいる様な気がしてなりません。

では、このまちがった方向を修正するのはどうすれば、と考えたとき、何も頭を抱えて難しく考えることではない、と思うのであります。

我々、世に先んじて教えに引き寄せられたよふぼくが、全世界に、尊きだめの御教を弘めてゆけば、まちがいなく、陽気遊山の世界は実現すると思うのであります。とにかく行動あるのみです。

教祖百二十年祭はおわりました。もう百三十年祭に頭を切り替えて、全よふぼくが一丸となってやっていこうではありませんか。

私もがんばります。

【7】だれにも“ある”３５億年のいのちが

あれもない、これもない。「ないもの」を探しはじめると、「あるもの」までもが見えなくなってくるものです。

まわりは豊かになりました。が、欲望に限りはなく、ないものを探し、求めます。そして物があふれ、大切なものが見えなくなりました。

いま一度、ないもの探しをやめ、あるものを数えてみましょう。いくらでもあります。たとえ私にはないと言う人にも、あるではありませんか。３５億年も生き続け、いま私が預かって生きているという、かけがえのない「いのち」が。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌三月号、「道柳」より転載
▽今回の課題は「根」、選四十五句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀　詠　東悠分教会長夫人　田　林　美智子

根づきゆく丹精楽し今日一日

▼瀬戸内海　恋灯台

詩　寺下宏一

一、思いみだれて　黒髪の　先までゆれる　恋心
君の後おう　瀬戸内航路　岬の灯台　夜明けの灯かり

二、別府　おのみち　瀬戸内の　浪にとけこむ　この思い
流れ流され　くだけちる　岬の灯台　恋あかり

三、なみだおさえて　見るあかり　神戸大阪　むねのたかなり
白らけき空に　うす化粧　ふるさとあとに灯台の灯よ
さようなら

▼雪の宿

一、音もなく　降る雪に　おそく　目ざめた　窓の白さに
おどろき声して　旅の宿　銀婚まぢか　山陰の朝

二、音もなく　くづれくる　二人の愛を　引きとめる
昔のちかい　心のちかい　美作　奥津　雪の宿

三、音もなく　散る花に　思いをはせる　恋心
永久(とわ)に変わらぬ　我が思い　岡山　津山　院庄

◈鼓笛バンド講習会

【日　　時】　３月３１日（金）～４月２日（日）２泊３日
【内　　容】　お供え演奏曲（テーマソングが変わります）練習、修得。
お楽しみ行事（室内オリンピック等）。
＊４月２日は、少年会おつとめ総会へも参加します。

◈にをいがけ、おたすけ実修会（希望教会のみ）

【実施期間】　４月～６月
【内　　容】　教話、にをいがけ、ねりあい（今年の活動指針等）
その他、教会長と派遣要員と相談の上、実施してください。
【申 込 み】　３月２０日までに所定の用紙で申込み。

◈少年会笠岡団「おつとめまなび総会」

【日　　時】　平成１８年４月２日（日）午前９時受付、９時半開会、午後３時閉会
【内　　容】　午前　おつとめまなび、総会式典、若木門出式
　　午後　お楽しみ行事（ゲームなど）

【対　　象】　少年会員（幼児、小学生、中学生）・育成会員
【参加御供】　各隊　１，０００円
【服　　装】　ハッピ、学校のズボン、スカート、白い靴下。
　　なお、祭儀式をつとめる人はおつとめ着。

◎各隊からの少年会員が日頃のおつとめまなびの成果を、親神さま、おやさま、にご覧頂く年に一度の総会です。大勢の参加をお待ちしております。
会長さん、奥さん、この機会に「教会おとまり会」などで少年会員におつとめの大切さを教え、おつとめの練習をよろしくお願い致します。

◈婦人会　第８８回総会

【日　　時】　４月１９日　午前９時３０分
【期　　間】　本部中庭
【おつとめ】　式典に続き、会長様を芯に全委員部長が、殿内で御礼とお願いのおつとめをつとめる
【記念行事】　講演会
　日　時：４月１８日　午前５時～６時
　場　所：**第二食堂、第三食堂、東講堂**
　　東右一棟四階講堂（同時通訳）
　テーマ：「ご存命の教祖」

◈学生会おぢばがえり

＊大教会学生担当委員会では「おぢばを賑やかに」というこの旬の４月２２日～２３日に学生層を対象としたおぢばがえりを計画しています。２２日には“１３峠越え”、２３日にはおぢば管内の学生との“懇親会”（新入生歓迎会）といった内容を考えています。集合・解散時間、また参加御供など詳しいことは来月この紙面でお知らせいたします。大勢の参加をお待ちしています。

◈立教１６９年全教一斉ひのきしんデー

【期　　日】　平成１８年４月２９日（祝）
＊教祖１２０年祭の年の全教一斉ひのきしんデーに全よふぼくが家族ぐるみで参加し是非とも５０万人の達成を

◈縦の伝道講習会（ＫＯＧ１０万人増員の本部巡回を兼ねて）

【と　　き】　平成１８年５月２１日（日）祭典講話として
【講　　師】　岩　谷　富太郎　先生（少年会本部委員）
【内　　容】　こどもおぢばがえり、縦の伝道についての講話
【対　　象】　教会長夫妻、布教所長、隊育成委員長、ようぼく、信者

◈各行事に参加ご希望の方は、
各ブロックの担当者にお申し込みください

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には日々子供かわいい一条の親心をつくして一列子供を御守護下さりお育て下さっております事は誠に有難い極みでございます　加えて「にんけんのわが子をもうもをなぢ事こわきあふなきみちをあんぢる」との思いからこれの世界だすけの道をおつけ下さると共に教祖の御身をお隠しなされて一列子供の成人をお促し下され陽気ぐらしへとお導き下さっております事は誠に勿体ない極みでございます　私共は親への感謝の気持ちを忘れる事なく朝夕に御礼申し上げると共に御恩報じを思い念じて「世界一列救けたい」との親心にお応えすべくにをいがけおたすけを通して日々にたすけ一条の御用の上につとめ励ませて頂いております　その中にも今日の吉日はこれの笠岡の理にお許し下さいました二月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一汐に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます　御前には寒さ厳しき中も厭いませず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先月二十六日は大勢の帰参者のもと教祖百二十年祭がしめやかに執り行われました　又年祭に向けての成人の歩みも皆の真実の心寄せによって一手一つにつとめる事が出来ました事は誠に有難く改めて御礼申し上げる次第でございます　おつとめの後真柱様より年祭活動に対してねぎらいのお言葉を頂戴した際何とも言えない感動をおぼえると共に新たな塚へ向かっての成人の歩みを誓わせて頂く事も出来ました　今世上は目先の豊かさに心奪われ親の恩を忘れ今ある結構さに気付けず喜びと感謝の心を失い苦しみにあえいでいる人が弥増しているように思われます　次の塚へ向かわせて頂くにあたり改めてお互いの信仰の元一日に思いを至し無い命助けて頂いた喜びと感謝かしものかりものの喜びと感謝の心をより強くして御恩報じとしてのたすけ一条の道を一歩一歩確実に歩ませて頂く覚悟でございます　又本日は学生層育成者講習会を開催させて頂き多感な学生時代にこそ親の思いを伝える事の大切さを学ぶと共に育成の糧とさせて頂く所存でございます

何卒親神様には例え牛歩の歩みでも確実に成人の階段を昇る皆の真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に自由の御守護を賜ります〳〵たすけ一条の道が延び拡がりお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎登殿参拝（二月）

島根　門脇元教
摩耶　岡本久善
金浦　西江昌直
興明　吉岡誠一郎
陶山　上原繁道
芳井　佐藤道孝
呉照　岡﨑輝彦
吸江　赤木素志
照陽　中村道徳
輝美濃　谷内伸自
備中　岡田　誠
出雲　高島定彦
錦洋　松本幹則
米府　三代　幸
西伯　本多一男
亀田山　高橋徳行
簸ノ川　津森朋之
多古浦　余村　健
瑞北　福島泰道
雲東　三代温生

◎教会長資格検定講習会修了者

前期　立教169年3月14日終講
多古浦　品川寿子

◎本部食堂ひのきしん

自　立教169年2月16日
至　立教169年2月28日
亀田山　山下　満

訃報

岡本サダコ姉

大教会おつとめ奉仕者
三月九日出直されました。
享年　八十七才

名言&迷言

今年の年頭会議で大教会長様より一、毎月一千人のおぢばがえり一、50万軒にをいがけとおさづけの取次ぎという成人目標ご発表の折り、義務感や恐怖感からせにゃならんではなしに、させて頂いて有難いなぁと楽しんでやらせて頂こう。そのためには、かしものかりものを心に治めて通って頂きたいと仰有った。

年祭後間もない二月十三日、中一の次男が寒い気分悪いと寝床へ来ておう吐した。様子がおかしいので名前を呼んだが応答がない。ビックリして、すぐおさづけを取次ぎ救急車でK病院へ、点滴一本だけで事なきを得た。過ぎし三年、不活発な通り方をお詫びして次の日より毎日にをいがけに出る様になった。

同月二十六日朝、今度は詰所のトイレで女房が動けなくなり救急車を頼んで憩の家へ、色々検査するも大事に至らず昼前には詰所へ帰ることが出来た。

同じ月に二度に亘って身上痛めてまでお仕込み頂き、改めて身上はかりものであり、どうなるも神様の御守護、神様次第と悟らせて頂き、今まで我身思案に頼って通った心得違いの親不孝をさんげし、この一年、有難いなぁ、楽しいなぁと動いて動いて成人した姿を教祖にごらん頂き、十二月の登殿参拝にのぞみたい。

（え）